

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2020年8月6日

【四半期会計期間】 第42期第2四半期(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

【会社名】 株式会社カッシーナ・イクスシー

【英訳名】 CASSINA IXC. Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役 社長執行役員 森 康 洋

【本店の所在の場所】 東京都港区南青山二丁目13番10号

【電話番号】 03-6439-1360 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 執行役員管理部長 小 林 要 介

【最寄りの連絡場所】 東京都港区南青山二丁目13番10号

【電話番号】 03-6439-1360 (代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 執行役員管理部長 小 林 要 介

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第41期 第2四半期 連結累計期間	第42期 第2四半期 連結累計期間	第41期
会計期間	自 2019年1月1日 至 2019年6月30日	自 2020年1月1日 至 2020年6月30日	自 2019年1月1日 至 2019年12月31日
売上高 (千円)	5,761,295	5,630,711	12,263,119
経常利益又は経常損失() (千円)	32,420	363,413	513,756
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期(当期)純損失() (千円)	368,598	177,575	56,118
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	368,506	177,575	55,340
純資産額 (千円)	4,166,105	4,543,021	4,479,272
総資産額 (千円)	9,001,957	9,209,777	9,490,141
1株当たり四半期純利益金額又は四半期(当期)純損失金額() (円)	97.15	46.80	14.79
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)			
自己資本比率 (%)	46.3	49.3	47.2
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	207,249	354,005	384,846
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	43,730	60,645	20,841
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	89,870	43,742	83,408
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	2,098,523	2,682,856	2,345,287

回次	第41期 第2四半期 連結会計期間	第42期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自 2019年4月1日 至 2019年6月30日	自 2020年4月1日 至 2020年6月30日
1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額() (円)	101.62	4.96

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在しないため、記載しておりません。
3 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について、新たに以下の追加すべき事項が生じております。なお、文中の将来に関する事項は、本四半期報告書提出日（2020年8月6日）現在において当社グループが判断したものであります。

（新型コロナウイルス感染症拡大に伴うリスク）

新型コロナウイルス感染症の影響により、世界および日本における生産活動や設備投資、消費に多大な影響が発生しております。このような状況下において、当社グループにおいてはお客様と従業員の安全を確保するため、感染防止対策を第一に考えて、様々な対策を講じながら営業活動を継続しております。しかしながら、今後さらに感染症が拡大し、その影響が広範囲に長期化した場合には、従業員の感染による店舗やオフィスの閉鎖、倉庫機能やサプライチェーンの分断による商品供給体制の機能不全などが生じて、通常の営業活動ができない事態に陥った場合には、当社グループの経営成績や財政状態に多大な影響を及ぼす可能性があります。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日において当社グループが判断したものであります。

(1) 経営成績の分析

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大によって、政府や各地方自治体から休業要請が出されたことや、国民の外出自粛によって個人消費は大きく落ち込む結果となりました。また、世界的な需要減少によって、生産や輸出が大幅に落ち込み企業収益の悪化は避けられない状況となっております。今後もわが国経済の先行き不透明感は依然として強く、企業収益への影響が長期化することが懸念されています。

当社グループが属する家具インテリア業界におきましても、店舗において営業自粛による臨時休業や営業時間を短縮したことに加えて、消費者も不要不急の外出を控えたために販売活動が大きく制限を受けることになりました。法人部門においても、各企業が積極的に社員の在宅勤務を推進したことにより、オフィスの新設や増設計画を見直したり、納品スケジュールが後ろ倒しになるなど大きな影響を受けております。今後は、店舗への来店を控える消費者に向けてインターネットを使ったバーチャルショールームを活用したり、リモート接客による営業活動など新しい方法を試行錯誤していくことになると考えられます。一方、在宅勤務が通常の働き方になることによって、住宅で過ごす時間が増加していることにより、機能やデザインに優れたホームオフィス用家具の需要が高まったり、多くの人が郊外の広い住宅に転居することによって、新たな家具需要が生まれるといったチャンスも発生し始めております。

このような環境のもと当社グループは、豊かな生活を求めるお客様に“洗練された、夢のある生活空間”を提供していくという理念を実現するため、一人ひとりのお客様のご要望をしっかりと伺いし、ご満足いただけるよう提案を行っております。第2四半期連結累計期間においては、カッシーナ・イクスシーが空港やオフィスなどの大型プロジェクトの受注に成功しましたが、個人住宅用の家具販売が低調に終わったため若干の減収となりました。しかしながら、粗利率の改善ならびに一般管理販売費を徹底して管理したことで営業利益は前年同四半期比で大幅な増益となりました。コンランショップ・ジャパンにおいては、第1四半期に京都店、渋谷店を閉店したことや、新宿本店、丸の内店、福岡店が入居している商業施設等の営業自粛によって、長期間にわたり臨時休業を余儀なくされるなど売上の構築に苦心し、前年同四半期と比較して減収となりました。また、粗利率は法人部門においてオフィス向け大型受注取引の粗利率が低かった影響により前年同期比で悪化したものの、臨時休業した店舗の家賃が減免されたり、人件費や販売費などの圧縮を行ったことにより、営業損益が黒字転換しました。ドイツ製システムキッチンのジーマティックを販売するエスエムダブリュ・ジャパンは、前年同四半期と比べて戸建て住宅向けの販売が伸び悩みましたが、マンション向けの売上が増加したことにより増収となりました。また、取引ごとの採算管理を徹底したことで粗利率が改善し、一般管理販売費の抑制に努めた結果、営業赤字は大幅に改善したもののまだ赤字が残る結果となりました。コンランショップ・ジャパン及びエスエムダブリュ・ジャパンの2社が前年同四半期において固定資産の減損処理によって特別損失を計上しましたが、当四半期において同様の特別損失は発生していないため四半期純損益は黒字転換しております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高5,630百万円(前年同四半期比2.3%減)、営業利益367百万円(前年同四半期は営業損失35百万円)、経常利益363百万円(前年同四半期は経常損失32百万円)、親会社株主に帰

属する四半期純利益177百万円(前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失368百万円)となりました。当社が財務指標の目標として掲げている売上高営業利益率は6.5%(目標10.0%)、自己資本比率は49.3%(目標50.0%)となり、いずれも目標に届かない結果となりました。

(2) 財政状態の分析

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて226百万円減少し、7,002百万円となりました。主な変動要因は、現金及び預金が337百万円増加した一方で、商品及び製品が396百万円、受取手形及び売掛金が253百万円それぞれ減少したことによるものです。固定資産は、前連結会計年度末に比べ53百万円減少し2,207百万円となりました。主な変動要因は、有形固定資産が43百万円減少したことによるものです。

この結果、総資産は前連結会計年度末に比べ280百万円減少し、9,209百万円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて482百万円減少し、2,990百万円となりました。主な変動要因は、支払手形及び買掛金が431百万円、賞与引当金が71百万円それぞれ減少した一方で、1年内返済予定の長期借入金が20百万円増加したことによるものです。固定負債は、前連結会計年度末に比べて138百万円増加し、1,675百万円となりました。主な変動要因は、社債が100百万円、長期借入金が37百万円それぞれ増加したことによります。

この結果、負債は前連結会計年度末に比べて344百万円減少し、4,666百万円となりました。

(純資産)

純資産は、前連結会計年度末に比べて63百万円増加し、4,543百万円となりました。主な変動要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上で177百万円増加した一方で、配当金の支払により113百万円減少したことによるものです。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下「資金」という。)は2,682百万円(前年同四半期比584百万円増)となりました。各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは354百万円の増加(前年同四半期比146百万円増)となりました。増加の主な要因はたな卸資産の減少額465百万、税金調整前四半期純利益の324百万円であり、減少の主な要因は仕入債務の減少額454百万円であります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における投資活動によるキャッシュ・フローは60百万円の減少(前年同四半期比16百万円減)となりました。主な要因は有形固定資産の取得による支出42百万円などによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間における財務活動によるキャッシュ・フローは43百万円の増加(前年同四半期比133百万円増)となりました。主な要因は長期借入れによる収入450百万円、長期借入金の返済による支出391百万円などによるものであります。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間の研究開発費の総額は19百万円であります。

なお、当第2四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動について重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	13,050,000
計	13,050,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2020年6月30日)	提出日現在発行数(株) (2020年8月6日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,091,100	4,091,100	東京証券取引所JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	4,091,100	4,091,100		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2020年4月1日～ 2020年6月30日		4,091,100		100,000		440,930

(5) 【大株主の状況】

2020年6月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 (自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ユニマツライフ	東京都港区南青山2-12-14	1,880,880	49.57
カッシーナエスピーエイ (常任代理人 株式会社カッシーナ・イクスシー)	ヴィア ブズネリ1 20036 メダ ミラノ (東京都港区南青山2-13-10)	480,000	12.65
高橋 洋二	千葉県八街市	207,120	5.45
榊原 暢宏	名古屋市昭和区	82,000	2.16
高橋 章恵	東京都渋谷区	49,100	1.29
佐藤 友亮	東京都世田谷区	45,000	1.18
株式会社マラルンガ	東京都港区南青山2-12-14	33,700	0.88
C I X社員持株会	東京都港区南青山2-13-10	32,820	0.86
土井 茂治	千葉県八千代市	30,000	0.79
大軒 紀之	静岡県浜松市中区	27,600	0.72
計		2,868,220	75.59

(注) 上記のほか、当社所有の自己株式 296,913株があります。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2020年6月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 296,900		
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,793,100	37,931	
単元未満株式	普通株式 1,100		
発行済株式総数	4,091,100		
総株主の議決権		37,931	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式13株が含まれております。

【自己株式等】

2020年6月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社カッシーナ・イクスシー	東京都港区南青山二丁目 13番10号	296,900		296,900	7.25
計		296,900		296,900	7.25

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(2020年4月1日から2020年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2020年1月1日から2020年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,345,287	2,682,856
受取手形及び売掛金	1,004,781	751,723
商品及び製品	2,895,292	2,498,359
仕掛品	125,487	77,023
原材料及び貯蔵品	332,907	312,914
その他	527,909	683,019
貸倒引当金	3,055	3,687
流動資産合計	7,228,612	7,002,208
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	938,149	895,786
その他(純額)	439,644	438,754
有形固定資産合計	1,377,793	1,334,541
無形固定資産	8,685	7,331
投資その他の資産		
その他	889,534	880,180
貸倒引当金	14,485	14,485
投資その他の資産合計	875,049	865,695
固定資産合計	2,261,529	2,207,568
資産合計	9,490,141	9,209,777
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	894,183	462,952
短期借入金	150,000	150,000
1年内返済予定の長期借入金	702,356	722,614
未払法人税等	171,358	145,123
賞与引当金	262,011	190,735
ポイント引当金	26,555	26,226
その他	1,267,303	1,293,257
流動負債合計	3,473,768	2,990,909
固定負債		
社債	100,000	200,000
長期借入金	1,116,565	1,154,405
退職給付に係る負債	40,962	45,623
資産除去債務	54,429	54,920
その他	225,143	220,896
固定負債合計	1,537,100	1,675,845
負債合計	5,010,868	4,666,755

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	100,000	100,000
資本剰余金	741,224	741,224
利益剰余金	3,747,695	3,811,444
自己株式	109,646	109,646
株主資本合計	4,479,272	4,543,021
純資産合計	4,479,272	4,543,021
負債純資産合計	9,490,141	9,209,777

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年6月30日)
売上高	5,761,295	5,630,711
売上原価	3,112,097	2,957,661
売上総利益	2,649,198	2,673,049
販売費及び一般管理費	2,684,964	2,305,633
営業利益又は営業損失()	35,766	367,416
営業外収益		
受取利息	573	19
為替差益	6,517	
買掛金償却益	2,940	1,197
受取給付金		2,000
その他	2,123	1,286
営業外収益合計	12,155	4,503
営業外費用		
支払利息	5,109	4,540
デリバティブ評価損	3,618	1,478
社債発行費償却		1,909
その他	81	577
営業外費用合計	8,809	8,506
経常利益又は経常損失()	32,420	363,413
特別損失		
固定資産除却損		544
減損損失	254,725	
倉庫移転費用	1,362	
臨時休業による損失		38,095
特別損失合計	256,088	38,639
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	288,508	324,773
法人税等	80,089	147,198
四半期純利益又は四半期純損失()	368,598	177,575
非支配株主に帰属する四半期純利益		
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失()	368,598	177,575

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失()	368,598	177,575
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	91	
その他の包括利益合計	91	
四半期包括利益	368,506	177,575
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	368,506	177,575
非支配株主に係る四半期包括利益		

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2019年1月1日 至2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2020年1月1日 至2020年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	288,508	324,773
減価償却費	94,945	78,211
減損損失	254,725	-
賞与引当金の増減額(は減少)	73,790	71,275
受取利息	573	19
支払利息	5,109	4,540
売上債権の増減額(は増加)	883,734	258,552
たな卸資産の増減額(は増加)	361,349	465,390
仕入債務の増減額(は減少)	101,927	454,687
その他	56,333	75,484
小計	356,031	530,002
利息の受取額	573	19
利息の支払額	4,998	4,656
法人税等の支払額	144,357	171,359
営業活動によるキャッシュ・フロー	207,249	354,005
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	22,910	42,807
無形固定資産の取得による支出	2,525	2,683
資産除去債務の履行による支出	-	14,800
その他	18,294	354
投資活動によるキャッシュ・フロー	43,730	60,645
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入れによる収入	400,000	450,000
長期借入金の返済による支出	376,354	391,902
社債の発行による収入	-	100,000
配当金の支払額	112,563	113,402
その他	953	953
財務活動によるキャッシュ・フロー	89,870	43,742
現金及び現金同等物に係る換算差額	246	466
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	73,402	337,568
現金及び現金同等物の期首残高	2,025,121	2,345,287
現金及び現金同等物の四半期末残高	2,098,523	2,682,856

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
税金費用の計算	税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
給与及び手当	666,910千円	625,958千円
賞与引当金繰入額	141,134 "	140,403 "
退職給付費用	12,666 "	4,661 "
地代家賃	577,323 "	539,343 "

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に記載されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
現金及び預金	2,098,523千円	2,682,856千円
預入期間が3か月を超える定期預金	"	"
現金及び現金同等物	2,098,523千円	2,682,856千円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年3月28日 定時株主総会	普通株式	113,825	30	2018年12月31日	2019年3月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2020年3月26日 定時株主総会	普通株式	113,825	30	2019年12月31日	2020年3月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは家具インテリア事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自 2019年1月1日 至 2019年6月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2020年1月1日 至 2020年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額()	97円15銭	46円80銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(千円)	368,598	177,575
普通株主に帰属しない金額		
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純損失金額()(千円)	368,598	177,575
普通株式の期中平均株式数(株)	3,794,187	3,794,187

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年8月3日

株式会社カッシーナ・イクスシー
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	鶴見	寛	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	八代	輝雄	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社カッシーナ・イクスシーの2020年1月1日から2020年12月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(2020年4月1日から2020年6月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(2020年1月1日から2020年6月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社カッシーナ・イクスシー及び連結子会社の2020年6月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。